THE FUKUOKA
ASIAN CULTURAL PRIZES

第5回
福岡アジア文化賞

THE 5th
FUKUOKA ASIAN CULTURAL PRIZES

1994

大　　賞

GRAND PRIZE

氏　名

スパトラディット・ディッサクン

Name: **M.C. Subhadradis DISKUL**

生年月日

1923年11月23日（70歳）

Date of Birth: **November 23, 1923（Age: 70）**

国　籍

タイ王国

Nationality: **Kingdom of Thailand**

プロフィール

スパトラディット・ディッサクン氏は、タイ歴史学の父といわれるダムロン親王の子息としてバンコクに生まれた。名門チュラーロンコーン大学を卒業し、文部省初等教育局に勤務、同省芸術局の課長職を経て、パリのルーブル宮学校・ロンドン大学に研究留学、海外で考古学と美術史学の専門研究を修めた最初のタイ人学者となった。帰国後芸術局考古部の専門官に就任し、タイ民族固有の文化財の研究・保存と修復事業に尽力、その実績に基づき1964年、シンラパーコーン大学にてタイ国初の考古学部の教授就任と同時に学部長を務め、同大学院研究科長、さらに学長を歴任、多くのタイ人専門家を養成した。各地の文化財等を活用公開するため国立博物館の設立に携わり、一方ではタイの考古学・美術史学の学問的確立に努め、タイ文化史を東南アジア史の文脈の中に位置づけた。

ディッサクン氏は、タイを中心とする東南アジアの考古学・歴史学の分野においてもオリジナルな研究業績を残しており、多くの著作は国際的に高い評価を受けている。1983年の第31回国際アジア・北アフリカ人文科学会議（東京で開催）においては基調講演を行う等東南アジアを代表する考古学・美術史学の第一人者として国際的注目を浴びた。1987年からは東南アジア文部大臣機構考古学・美術研究センター所長として、東南アジア各国の伝統文化の発展と復興および考古・美術・文化財等の専門家育成に心血を注いできた。これらの実績はユネスコ等の国際機関からも極めて高い評価を受けている。

タイの最高権威を誇るサイアム・ソサエティの名誉副会長や、タイ国歴史学会の会長職等も歴任し、現在、芸術局顧問である同氏は、アジア世界の視座から東南アジア文化とその研究の意義を広く世界へ提示し、東南アジアに対する理解に大きな貢献を成し遂げた学界の重鎮として、国際的な評価が高い。

略　歴

1923　バンコクで誕生
1943　チュラーロンコーン大学卒業
1946　文部省初等教育局入局
1947　文部省芸術局古文書課長、ダムロン図書館課長
1951　パリ・ルーブル宮学校にてキュレータ（学芸員）資格取得
1952–53 ロンドン大学考古学研究所客員研究員
1953–64 芸術局考古部専門官
1964–75 シンラパーコーン大学考古学部教授、兼学部長
1976–81 同大学大学院研究科長
1980　タイ国歴史学会会長
1982–86 シンラパーコーン大学学長
1984　白象最高位騎士大綬章受章
1987–92 東南アジア文部大臣機構考古学・美術研究センター所長
1990–　サイアム・ソサエティ名誉副会長
1993–　芸術局顧問
1994　チュラチョムクラオ一等勲章受章

主な著作

『プラ・パトム・チェディ仏塔』バンコク，1948
『ロッブリー美術』バンコク，1953
『アユタヤ美術』バンコク，1956
『タイ国の美術』バンコク，1963（邦訳，井村文化事業社，1987）（英訳あり）
『私蔵コレクションの傑作』バンコク，1970
『セイロン訪問』バンコク，1974
『スコータイ美術』バンコク，1978（英・仏訳あり）
『タイ－アーケオロジア・ムンデイ・コレクション』ジュネーブ，1978（英・仏・独・伊訳あり）
『シュリーヴィジャヤの美術』（編）クアラルンプール，パリ，1980（英文）
『スコータイ時代の青銅製ヒンドゥー神像』バンコク，1990

贈賞理由

スパトラディット・ディッサクン氏は、タイ国の優れた考古学・美術史学者であり、同国を代表する人文科学の国際的知識人として知られている。

同氏はタイ歴史学の父といわれるダムロン親王の子息としてバンコクに生まれた。名門のチュラーロンコーン大学を卒業後、文部省芸術局に入る。父の影響もあって、はやくから国内各地の寺院・大小の遺跡・考古趾などに放置されたタイの文化財に関心を抱いていた同氏は、考古・美術等の専門研究を深め、文化財等の保存修復事例を学ぶためにヨーロッパへ留学、パリのルーブル宮学校でキュレータの資格を取得し、ロンドン大学考古学研究所で方法論を修めた。帰国後、タイ国内の考古学・美術史学の調査・研究を科学的手法により推進し、多くの研究成果を上げると同時に文化財の救済に積極的に取り組んできたのである。こうした実績に基づき、1964年にシンラパーコーン大学の考古学部教授に就任、研究指導の先頭に立った同氏は、同大の考古学部部長・大学院研究科長・学長等の職責をまっとうし、後進の育成に心血を注いできた。さらに国内各地の考古学資料・文化財等を保存・公開するための国立博物館の設立に尽力し、地域文化の振興に大きく寄与した。

学術研究では歴史の当事者であるタイ人の立場から考古学・美術史学の学問的確立に努め、特にタイ美術の時代区分および東北タイのクメール系遺跡の再評価を確定した。タイ人自身による研究成果は注目を浴び、同氏はタイ文化史の厳密な学問的再評価を東南アジア研究のなかに位置づけた最初の学者となった。『タイ国の美術』や『スコータイ美術』など多くのオリジナルな学術業績は国際的に高い評価を受けており、1983年第31回国際アジア・北アフリカ人文科学会議では基調講演を行い、東南アジアを代表する考古学・美術研究の第一人者としてその地位を確固なものとしている。

1978年からは東南アジア文部大臣機構の考古学・美術研究センター所長として、東南アジア各国の伝統文化の保存のために多くのセミナーやワークショップを精力的に組織し、各国の遺跡から伝統音楽までの文化財等を扱う専門家の養成に努めてきた。多くの人材養成と地域ネットワーク作りは、ユネスコなどの国際機関からも高い評価を受けてきた。

このようにスパトラディット・ディッサクン氏は東南アジア人の価値観に立脚して、東南アジア考古学・美術研究を世界史の文脈のなかに位置づけ、固有の文化とその多様性を科学的手法により証明し、東南アジア研究を国際レヴェルにまで高めたその輝かしい功績は、人々の東南アジアに対する学術的理解に大きく貢献したと評価できるものであり、まさしく「福岡アジア文化賞－大賞」にふさわしい業績といえる。

学術研究賞・国際部門

ACADEMIC PRIZE: INTERNATIONAL

氏　名
王（ワン）　賡（ガン）　武（ウー）

生年月日
1930年10月9日（63歳）

国　籍
オーストラリア（香港在住）

Name: **WANG Gungwu**

Date of Birth: **October 9, 1930（Age: 63）**

Nationality: **Australia**
(based in Hong Kong)

プロフィール

インドネシアのスラバヤに生まれた王賡武氏は、マレーシアのイポーの高校で学び、中国の南京国立中央大学を経て、マラヤ大学を卒業後、ロンドン大学で博士号を取得した。ひき続き、母校のマラヤ大学で歴史学の講師、教授、人文学部長として教鞭をとる一方で、南洋学会や王立アジア協会マレーシア支部の機関誌を編集する等、マレーシアにおける歴史学の基礎を築いた。1968年にオーストラリア国立大学の極東史教授となり、以降同大学の太平洋研究学院院長、オーストラリア人文アカデミー院長を歴任、当地におけるアジア理解に大きく寄与してきた。1986年からは香港大学の学長（正式には副総長で、総長は香港総督）としてさらに国際的な活躍を続けている。

王氏の東南アジア華人、中国史の研究は、その卓越した独創性、分析力で広く知られているが、最近では、華人の多元的アイデンティティの理論を提出、高く評価されている。海外の学術機関より客員教授・研究員として招聘されることも多く、実際の活動拠点もマレーシアからオーストラリア、香港と次々に移し、それぞれの地の学界で、優れたリーダーシップを発揮してきた。クアラルンプールにおいては、30代の若さで国際アジア歴史学者会議の会長に選出され、後年香港においても再度、同会長を務めている。このように、アジア研究の国際学術交流に寄与するところが大きく、大小の国際会議の中心的な組織者として、東洋と西洋、中国と世界、東南アジア華人と他の東南アジアの人々をつなぐ役割を果たしてきた。同氏の発言には世界中のアジア研究者や知識人が注目して傾聴するといわれ、アジアのスポークスマン、知的リーダーとして際立っている。王賡武氏のこのようなスケールの大きい国際的な軌跡は新しい「アジアの知性」の在り方を示している。

略　歴

1930　インドネシアのスラバヤで誕生
1954　マラヤ大学卒業
1957　ロンドン大学博士号取得
1957-61 マラヤ大学助講師、講師
1962-63 同大学人文学部長
1962-68 王立アジア協会マレーシア支部副支部長
1963-68 マラヤ大学歴史学教授
1964-68 国際アジア歴史学者会議会長
1968-86 オーストラリア国立大学極東史教授
1975-80 同大学太平洋研究学院院長
1978-80 オーストラリア・アジア研究学会会長
1980-83 オーストラリア人文アカデミー院長
1986-　香港大学学長
1988　オーストラリア国立大学名誉教授
1988-91 国際アジア歴史学者会議会長
1991　大英勲章受章
1993　国際アジア・北アフリカ研究会議名誉会長

主な著作

『南海貿易』シンガポール，1958
『南洋華人小史』シンガポール，1959
『五代の華北における権力構造』クアラルンプール，1963
『1949年以降の中国と世界』ロンドン，1977
『共同体と国家』シンガポール，シドニー，1981　(第2版　1992)
『東南アジアと華人』北京，1987　(華文)
『第二次世界大戦以降の東南アジアにおける華人アイデンティティの変化』(共編)香港，1988
『中国はどこへ行くのか』(共著)シンガポール，1990(邦訳『中国の挫折と命運』東京，学生社，1991)
『中国の中国らしさ』香港，1991
『中国と在外華人』シンガポール，1991

贈賞理由

王賡武氏は、アジアを代表する歴史学者であり、国際的な知的リーダーとして名高い。

同氏はインドネシアで生を受け、マレーシアで育ち、中国、シンガポール、英国で高等教育を受け、若年にしてマラヤ大学教授におされた。その初期の業績は、南洋華人の植民史、南海貿易、明朝と東南アジア特にマラッカ王朝との関係について独創的な解釈を示したことである。東南アジアの歴史学者が、内側からの視点に立って東南アジアの歴史を世に問う先鞭をつけたといえる。マレーシアで歴史学者としての地位を不動のものとしたばかりでなく、マラヤ大学を歴史学研究の国際的な拠点にすることに努力し、学界を指導し、後進を育成する上で大きな成果をあげた。

1968年、オーストラリア国立大学の極東史の教授に招かれ、同地に移住した後は、ナショナリズム、エリートについての鋭い考察を次々と発表し、中国と東南アジアの関係をより広い視野から歴史的に解明することに重点が移っていく。この時期、歴史学者としての幅広い地域を対象とした政治的国際関係に関する発言は、様々な示唆に富み、注目に値するものであった。また、同大学の権威ある太平洋研究学院長、オーストラリア・アジア研究学会長やオーストラリア人文アカデミー院長という重職をこなし、アジア太平洋研究の国際的な発展に多大の貢献をなした。

1986年、香港大学の学長に就任した後も、特に急激な社会変動の中での歴史的継続性ということに注意しながら、従来からの関心事である華人問題、アイデンティティ、国際関係について重要な論稿を発表している。学問的な貢献にもまして、その国際的な活躍は目覚ましく、爽やかな人となり、温厚でシャープな人柄とあいまって、相対立する人々、葛藤する文化の間の橋渡し役として、洋の東西を問わず深い信頼を寄せられ、いまや現代のアジアにとってなくてはならない知性の代表者として目されている。

このように、アジアの知性としての王賡武氏の学問的な業績は、アジアの歴史学界に燦として輝き、後世の道標となるものであり、まさしく「福岡アジア文化賞－学術研究賞・国際部門」に相応しい業績といえる。

学術研究賞・国内部門

ACADEMIC PRIZE: DOMESTIC

氏　名
石井米雄（いしい よねお）

Name: **Yoneo Ishii**

生年月日
1929年10月10日（64歳）

Date of Birth: **October 10, 1929（Age: 64）**

国　籍
日　本

Nationality: **Japan**

プロフィール

東京に生まれた石井米雄氏は、恩師の勧めでタイ語を学び、留学を希求するようになった。その願いは、外務省に入り、1957年に名門チュラーロンコーン大学に学ぶことで実現した。タイ語をはじめ、歴史・社会・宗教を学び、さらにタイの心にふれようと、1958年には、仏教僧として得度を受け、バンコクの名刹ボーウォンニウェート寺で3か月の出家生活を送った。またこの時期に、「稲作民族総合文化調査団」（日本民族学会）や「東南アジア学術調査隊」（大阪市立大学）に参加して、タイをはじめカンボジア、ラオス、ベトナムをジープで踏査するなど、広く東南アジアの民族と文化に触れる機会も得た。このような幅の広い知見とタイ人も目を見張る見事な語学力を身につけたことは、当時としては稀有のことであり、その後の学問研究に存分に生かされることになった。

留学終了後も、ひき続いてバンコクの日本大使館に1963年まで勤務、当地での滞在は足かけ7年に及んだ。その後、65年に京都大学東南アジア研究センターに招かれて、本格的な学究生活に入り、67年に教授、85年から90年まで所長を務めた。1990年からは、上智大学アジア文化研究所に移り、研究に加えて教育にも力を注ぎ、93年には同所長に就任した。

石井氏はタイ仏教の社会学的研究を中心に多くの著作を発表してきた。なかでも、『上座部仏教の政治社会学 ― 国教の構造』（1975年）は、英語とマレーシア語にも翻訳され、タイ仏教研究の基本書として国際的に広く活用され、また『三印法典総辞索引』（1990年、全5巻）は、タイの学界から高い評価を受けている。現在も、後進の育成に努めるかたわら、国際アジア歴史学者会議会長として、本年第13回大会を東京で開催するなど、国際学界でも活躍しており、東南アジア地域研究の発展に大きく貢献している。

略　歴

1929　東京で誕生
1955　東京外国語大学第七部第三類（タイ語）中退，
　　外務省入省（アジア局・大臣官房）
1957–58 外務省留学生としてタイ国立チュラーロンコーン大学文学部留学
1958–63 在タイ日本国大使館勤務
1963–65 外務省アジア局勤務
1965–67 京都大学東南アジア研究センター助教授
1967–90 京都大学東南アジア研究センター教授
1980　京都大学法学博士号取得
1980　東宮職御用掛（徳仁親王タイ国旅行随行）
1985–90 京都大学東南アジア研究センター所長
1987　タイ王国白象三等勲章受章
1990–　上智大学アジア文化研究所教授
1990　京都大学名誉教授
1991–　東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター所長
1991–　国際アジア歴史学者会議会長
1992–　日本学術振興会学術顧問（人文科学担当）
1993–　上智大学アジア文化研究所所長

主な著作

『戒律の救い－小乗仏教』京都，1969
『上座部仏教の政治社会学』東京，1975（英・マレーシア語訳あり）
『タイ国－ひとつの稲作社会』（編著）東京，1975（英訳あり）
『インドシナ文明の世界』東京，1977
『東南アジア世界の形成』（共著）東京，1985
『日タイ交流六〇〇年史』（共著）東京，1987（タイ語訳あり）
『タイ仏教入門』東京，1991
『講座仏教の受容と変容２　東南アジア編』（編著）東京，1992
『講座東南アジア学４　東南アジアの歴史』（編著）東京，1992
『タイの事典』（共編著）京都，1993
『三印法典総辞索引』（共編）バンコク，1990　（英文）

贈賞理由

石井米雄氏は、日本における東南アジア研究のパイオニアであり、世界的なタイ学者である。

東京に生まれた同氏は、若くしてタイ国のチュラーロンコーン大学に留学、外務省勤務を経て、1965年京都大学東南アジア研究センターに迎えられ、以来、わが国の東南アジア研究の発展に寄与してきた。90年に上智大学へ移って研究と教育の場はさらに広がり、国の内外で精力的に活動、本年9月には国際アジア歴史学者会議の会長として、その第13回大会を東京で開催する。

石井米雄氏は少年時代から卓越した語学の才能を示して、はじめ言語学者を志したが、恩師の勧めでタイ語を学び、それをきっかけとしてタイ国と東南アジアの研究を、ただ一筋に深め続けてきた。特に20歳台でタイへ渡り6年有余の研鑽を経て、タイの人々が目を見はるほどタイ語に習熟するとともに、その地の人々の宗教生活への深い愛着と、歴史、社会、文化への尊敬の念を抱くようになった。

自ら出家生活を経験し、タイ仏教の文献を精査して完成した『上座部仏教の政治社会学』は、国王と仏教をめぐる宗教社会学的研究の画期的成果として高く評価され、英語とマレーシア語にも翻訳された。今なお、タイ仏教に関する名著として、各国で広く読みつがれている。同氏の研究は、その後、古代法典や比較法制史の領域へと深まり、中でもバンコクで刊行された『三印法典総辞索引』全5巻は、コンピューターを駆使した精緻な業績として、タイの学界から高い評価を受けた。この他にも、東南アジアの歴史研究や日本とタイの関係史の分野で、歴史的洞察に裏付けられた成果を、精力的に発表してきた。

同氏は優れた研究者であるだけでなく、国際的学術研究の推進や、若い世代の東南アジア研究者の育成についても、際立った貢献をしてきた。同氏を中心として多くの国際的プロジェクトが成果を挙げ、優れた若手研究者が同氏の薫陶を得て育ってきた。深い学識と抜群の語学力と謙虚な人柄があいまって、アジアをはじめ欧米諸国の学界からも、深い信頼を得、日本の東南アジア研究の国際化に大きく寄与してきた。

このように、石井米雄氏の学問研究における優れた業績は、日本の東南アジア研究の発展に多大の貢献をなしたと評価できるものであり、まさしく「福岡アジア文化賞－学術研究賞・国内部門」に相応しい業績といえる。

芸術・文化賞

ARTS AND CULTURE PRIZE

氏　名

パドマー・スブラマニヤム

生年月日

1943年2月4日（51歳）

国　籍

インド

Name: **Padma SUBRAHMANYAM**

Date of Birth: **February 4, 1943（Age: 51）**

Nationality: **India**

プロフィール

南インドの音楽芸術の中心地マドラスで生まれたパドマー氏は、映画監督の父と作詩作曲家の母のもと、芸術的な環境の中で育った。幼少の頃からインドの古典舞踊バーラタ・ナーティヤムを学び、単に舞踊家としてばかりでなく、十代にして舞踊劇の振付も行い、創造力、表現力豊かな才能は、早くから脚光を浴びた。1965年にはマドラス大学で音楽修士号を取得、自らが振付けた作品の音楽の作曲も手掛け、インドの音楽舞踊界に影響を与え続けてきた。

パドマー氏の業績は、舞踊の理論と実践の両方にまたがっている。音楽・演劇等に関する古代文献『ナーティヤ・シャーストラ』(バーラタ・ムニの著作とされる)の記述と、寺院彫刻との関係を探ることによって、廃れてしまった古代の舞踊表現を現代に蘇らせることに成功し、アンナーマライ大学より博士号を授与された。精力的な研究活動の成果は、多数の論文、著作の他、寺院の舞踊彫刻像のデザインや、同氏が校長を務める舞踊学校、ヌリティヨーダヤ制作のドキュメンタリー・テレビ番組となって結実している。新作振付や舞踊劇の制作も数多く、作品には、自身の研究成果に基づいて再興された古代の伝統が現代的な感覚で蘇り、見事な調和を保っている。その他、後進の育成にも力を注ぎ、日本をはじめアメリカ、ヨーロッパ等世界各地で積極的に公演を行うなど活動範囲は多岐にわたっている。

また、シンガポール芸術祭の振付顧問、サンギート・ナータク(音楽演劇)アカデミー理事、インド文化評議会評議員などの要職も歴任し、舞踊界のみならず、インドの芸術・文化の発展に大きく貢献している。

略　歴

1943　マドラスで誕生
1948　古典舞踊を学び始める。
1957　父親が設立した舞踊学校ヌリティヨーダヤで教え始める。
1963　舞踊劇『ミーナークシー女神の結婚』を初めて振付
1963　マドラス大学卒業
1964-　ヌリティヨーダヤ校長
1965　マドラス大学にて音楽修士号（民族音楽学）取得
1975　タミル・ナードゥ州カライママニ賞受賞
1979　アンナーマライ大学にて哲学博士号取得
1981　パドマシュリー賞受賞
1982-88 サンギート・ナータク（音楽演劇）アカデミー理事
1982-85 インド文化評議会評議員
1982　シンガポール芸術祭インド・プログラム振付顧問
1983　サンギート・ナータク・アカデミー賞受賞
1984　タミル・ナードゥ州政府賞受賞
1984-94 ナタラージャ寺院のために 108 種のポーズをとった舞踊像をデザイン
1991　マディヤ・プラデーシュ州カーリダース・サンマーン賞受賞
1994　ラジーヴ・ガンディー国家統合賞受賞

主な著作

『バーラタ・ムニの芸術－昔と今』ボンベイ，1979
『バーラタ・ムニの芸術に関する理論』マドラス，1985
『ナーティヤ・シャーストラ入門』ペンシルバニア，1988
ＴＶ番組「バーラティーヤ・ナーティヤ・シャーストラ」制作，1989-91
「リトゥ・マーハートミヤム（季節）」作曲，1992

贈賞理由

パドマー・スブラマニヤム氏はインド古典舞踊バーラタ・ナーティヤムの第一人者であり、古代インドの音楽芸術の研究でも名高い。

バーラタ・ナーティヤムは南インドを代表する伝統芸術であり、音楽と一体化したリズミカルなフットワークや歌詞の内容の表現に、高度な技巧と鋭い感性が要求される。

パドマー氏は10代の頃から表現力、創造力豊かな舞踊家として注目を浴びてきた。氏の業績は、音楽芸術の研究においても特筆に値する。古代文献『ナーティヤ・シャーストラ』の舞踊に関する記述と、寺院の壁面に彫刻されている舞踊像との関係について研究した論文で、アンナーマライ大学より博士号を取得、長い歴史を経てほとんど失われてしまった古代の様式を、詳細な研究によって現代に蘇らせた。また、研究の成果を実際の舞踊に活かし、理論と実践を結合させた。

パドマー氏は、正統的な舞踊伝統を継承する師の下でバーラタ・ナーティヤムを学んだが、それと同時に独創性を発揮し、10代にして早くも自身の振付による舞踊作品を発表、脚光を浴びた。その後も、民俗舞踊、他のインド古典舞踊、西洋音楽等、様々な要素を取り入れ、伝統的手法に現代的な要素を加味したオリジナル作品を多数創作している。また、パドマー氏はマドラス大学より修士号を取得し、創作舞踊作品の音楽の作曲もこなす等、音楽家としても活躍している。

以上のように、パドマー氏の業績は多岐にわたり、氏が校長を務める舞踊学校ヌリティヨーダヤのみならず、各地の研究機関で、後進の育成、インドの芸術文化の発展に努めている。

このように、パドマー・スブラマニヤム氏の輝かしい功績は、インドの古典舞踊を通じて、アジアの音楽芸術の継承・発展に大きく寄与したものであり、まさしく「福岡アジア文化賞ー芸術・文化賞」に相応しい業績といえる。

公式行事スケジュール

行事	日時	場所	内容
授賞式	9月2日（金） 14：00～15：30	福岡サンパレス	・1994年(第5回) 福岡アジア文化賞授賞式 ・参加者：約 1,100名
記者会見	9月2日（金） 16：00～16：40	福岡サンパレス	・受賞者による記者会見
祝賀会	9月2日（金） 18：00～19：30	ホテル日航福岡	・受賞者御夫妻、在日アジア各国大使御夫妻、市民及び留学生のほか関係者の参加による祝賀会 ・招待者：約 350名
記念講演会	9月3日（土） 13：00～15：00	福岡市役所 15階　講堂	・受賞者による記念講演会 ・参加者：約 400名
ワークショップA	「アジア地域研究フォーラム」 9月3日（土） 16：00～18：00	福岡市役所 15階　講堂	・学術研究賞受賞者による専門家向けのフォーラム ・参加者：約 130名
ワークショップB	「インド舞踊パフォーマンス」 9月3日（土） 18：30～20：30	ＮＨＫ福岡放送局 Ｔ－１スタジオ	・芸術・文化賞受賞者による公演会 ・参加者：約 300名
ワークショップC	「アジア考古・美術史フォーラム」 9月4日（日） 13：30～16：30	九州大学国際ホール	・大賞受賞者による専門家向けのフォーラム ・参加者：約 100名

授　賞　式

日　時：9月2日（金）　午後2時〜3時30分
場　所：福岡サンパレス

1994年（第5回）福岡アジア文化賞授賞式は、福岡サンパレスで行われました。

第5回の受賞者は、大賞がスパトラディット・ディッサクン氏（タイ王国）、学術研究賞・国際部門が王賡武氏（オーストラリア）、学術研究賞・国内部門が石井米雄氏（日本）、芸術・文化賞がパドマー・スブラマニヤム氏（インド）の4名でした。

式典は午後2時30分から、在日アジア各国大使御夫妻、留学生及び学術・教育・芸術・文化関係者、市民等約1,100名の参加を得て開催され、受賞者の名誉を称えました。

また、祝曲として、長澤真澄氏による箜篌（くご）の演奏が行われたほか、芸術・文化賞受賞者のパドマー・スブラマニヤム氏によるインド舞踊バーラタ・ナーティヤムが披露され、授賞式を盛り上げました。

PRIZE PRESENTATION CEREMONY

Date: Friday, September 2, 1994
2：00 − 3：30 p.m.
Place: Fukuoka Sun Palace

The Prize Presentation Ceremony of the 5th Fukuoka Asian Cultural Prizes 1994 was held at Fukuoka Sun Palace.

The four recipients were： Professor M.C. Subhadradis Diskul of the Kingdom of Thailand for the Grand Prize, Professor Wang Gungwu of Australia for the International Category of the Academic Prizes, Professor Yoneo Ishii of Japan for the Domestic Category of the Academic Prizes and Dr. Padma Subrahmanyam of India for the Arts and Culture Prize.

Ambassadors of Asian countries and their wives, overseas students in Fukuoka, other concerned parties from the fields of education, arts and culture and citizens of Fukuoka attended the 2：30 Prize Presentation Ceremony. Over 1,100 individuals warmly welcomed the honorable recipients.

A ceremonial musical performance of the *kugo* harp was given by Ms. Masumi Nagasawa. A special Dance performance of Bharata Natyam, Indian traditional dance was also given by the Arts and Culture Prize winner, Dr. Padma Subrahmanyam.

1994年（第5回）福岡アジア文化賞授賞式
The 5th Fukuoka Asian Cultural Prizes 1994 Presentation Ceremony

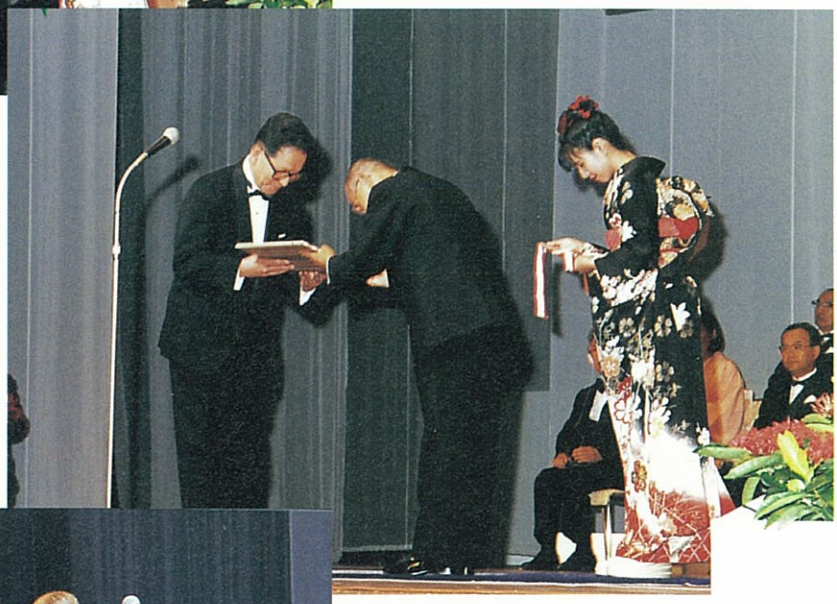
会場を埋めた参加者
The ceremonial hall was filled to capacity.

式 次 第

開　　式	14：00	
	贈賞者入場・受賞者入場	
祝 曲 演 奏	「総角(あげまき)のうた」	長澤　真澄
主催者代表挨拶	福岡市長	桑原　敬一
来 賓 挨 拶	外務省特命全権大使	遠藤　哲也
	（日朝国交正常化交渉日本政府代表及びアジア・太平洋協力担当）	
〃	文化庁文化部長	福島　忠彦
選考経過報告	福岡アジア文化賞審査委員会委員長	
		前九州大学学長　高橋　良平
贈 賞 理 由	福岡アジア文化賞審査委員会副委員長	
		前九州芸術工科大学学長　安藤　由典
贈　　賞	福岡市長	桑原　敬一
受賞者挨拶	スパトラディット・ディッサクン	
贈 賞 理 由	学術研究賞選考委員会委員	
		九州大学教授　丸山　孝一
贈　　賞	（財）よかトピア記念国際財団理事長	川合　辰雄
受賞者挨拶	王(ワン)　廢(ガン)　武(ウー)	
贈 賞 理 由	学術研究賞選考委員会委員	
		九州大学教授　西谷　正
贈　　賞	（財）よかトピア記念国際財団理事長	川合　辰雄
受賞者挨拶	石井　米雄	
贈 賞 理 由	芸術・文化賞選考委員会委員長	
		石井和紘建築研究所代表　石井　和紘
贈　　賞	（財）よかトピア記念国際財団理事長	川合　辰雄
受賞者挨拶	パドマー・スブラマニヤム	
特 別 舞 踊	パドマー・スブラマニヤム	
閉　　式	15：30	
	司会：佐々木謙介（ＮＨＫ福岡放送局チーフアナウンサー）	

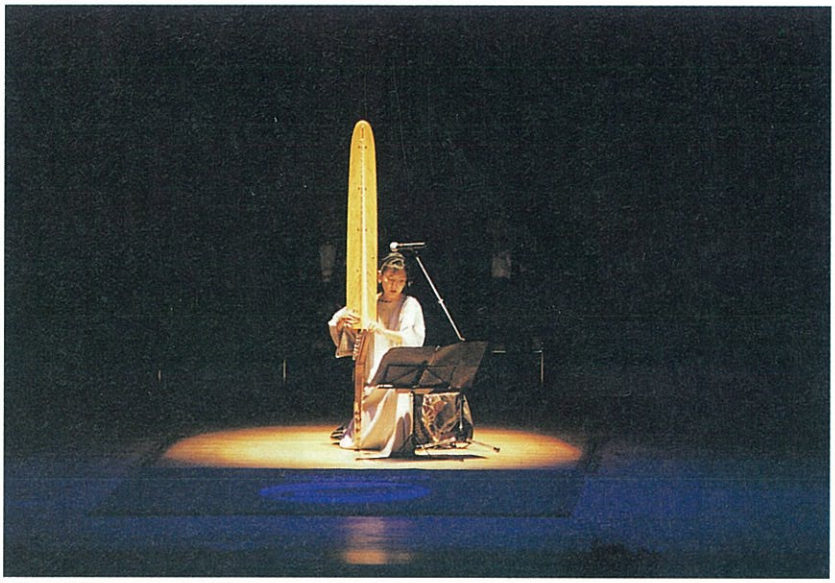
桑原市長から賞状を受け取るスパトラディット・ディッサクン氏
Mr. Kuwahara, Mayor of Fukuoka, presented the diploma of honor to Professor M. C. Subhadradis Diskul

王賡武氏への賞状を読み上げる川合理事長
Mr. Kawai read Professor Wang Gungwu award citation



川合理事長から賞状を受け取る石井米雄氏
Mr. Kawai, Chairman of the Yokatopia Foundation, Presented the diploma of honor to Professor Yoneo Ishii

川合理事長からパドマー・スブラマニヤム氏に賞状、メダルの贈呈
Mr. Kawai Presented the medal and diploma of honor to Dr. Padma Subrahmanyam



長澤真澄氏による祝曲演奏
Ceremonial musical performance by Ms. Masumi Nagasawa.

授賞式のフィナーレ　アジア各国大使御夫妻もステージに上がられ、受賞者を称えられた。
The Prize Presentation Ceremony Finale. On the stage, the Ambassadors of Asian Countries and their spouses praised the recipients.

受賞者挨拶

スパトラディット・ディッサクン

ご列席の皆様。

この度、1994年（第5回）福岡アジア文化賞大賞を受賞いたしましたことをたいへん名誉に存じます。またこの栄誉は私一人が浴するものではなく、私の家族、そして私が長年講師あるいは学長として勤めたシンラパーコーン大学にも与えられたものと考えております。さらに、アジア諸国のなかから選ばれたという意味において、私の国タイ（シャム）にとっても名誉であると感じております。

貴賞受賞者としての栄誉を賜ることにより、タイ文化に関する知識を諸外国に広め、同時にアジアの様々な異文化をタイの学生に知らせるという私の務めをさらに継続していくようにと励まされた気がいたします。私は、現在もシンラパーコーン大学において美術史を教える特別講師をしており、これに関連した学術文献を著したり、あるいは翻訳したりしてそれらをタイの民衆だけでなく外国の人々、とくにアジアの人々に伝えていきたいと考えております。

福岡アジア文化賞は、アジアの文化研究者を奨励し、人類の発展やアジア諸国間のよりよい相互理解を促進するという点でたいへんに重要な賞であります。

福岡アジア文化賞委員会の皆様に対し、この栄誉ある賞を賜りましたことに重ねてお礼申し上げます。

ありがとうございました。

受賞者挨拶

王　賡　武

本日、福岡アジア文化賞を受賞いたしましたことは、私にとりまして大変に名誉なことであります。妻も私も、福岡市が私に授賞下さいましたことを大変誇りに感じております。私どもが初めて福岡の地を訪れたのは二十数年前のことですが、その時はまさかこのような形で再びこの地に戻ってくることになろうとは思いもしませんでした。本日、妻とともにこの受賞の喜びを分かちあえたらと残念でなりません。どうしてもはずせない先約があってここに同席できないことに対し、くれぐれもお詫びをしておいてくれと妻も申しておりました。妻は今、いつか是非行きたいと願っていた中国のシルクロードを旅行中です。ちょうど今日は、日本からも多くの方々が訪ねている神秘的で歴史的な地、敦煌にいるはずです。

前回の来福のときのことはよく覚えております。初めて訪れた九州の地であり、触れる機会のより多かった関西・関東地域と異なる生活様式や地形に非常に興味をそそられました。そして何よりも、中国系の人間が日本と中国との文化的繋がりにいつも魅せられてきたように、私たちもまた、昔から日本の西の玄関口であった福岡を見ることを楽しみにしておりました。そして私たち夫婦は福岡の浜辺を歩き、その先に中国がある西の方角を眺めたとき、中国から船がやってきて、旅行者が、学者や僧侶が、商人が降りてきて様々な商品、中国の品々を持ち込み、貴賤を問わず日本の人々の好奇心をそそっただろう風景を目に浮かべることができました。また、この浜辺に上陸したモンゴル軍を打ち破った神風のことも思い起こしたのでした。

今回、妻は同行しておりませんが、妻も私も福岡には今後も中国や韓国のみならず、さらに南下して香港、台湾そして東南アジア諸国に対し、歴史を持った玄関口の役割を果たし続けて欲しいと願っております。たしかに、今日世界は狭くなり、どの都市も同地域内の関係のみで満足してはおりません。福岡もさらに遠くを見つめ、より多くの人々や様々な文化がその海辺に到着してほしいと望んでいかれることでしょう。福岡アジア文化賞も、そのより広い世界に絶え間なく向けられた関心を示すひとつの例でしょう。この国際賞の受賞者として、他の素晴らしい受賞者の方々のなかに加えていただいたことを大変な栄誉と感じております。この素晴らしい賞を下さいましたことに重ねてお礼を申し上げます。

ありがとうございました。

受賞者挨拶

石井　米雄

この度はからずも名誉ある賞をいただき、光栄かつ大変嬉しく思っております。私が東南アジアの研究を志して今年でちょうど41年になりますが、今日こうしてアジアの学術・文化の発展を願って創設された「福岡アジア文化賞」を与えられて、来し方を振り返ってみると、アジアの勉強を続けていて本当によかったと感じております。

もうひとつの喜びは、私が以前から尊敬申し上げていたアジアを代表するお二人の学者モムチャオ・スパトラディット・ディッサクン教授と、ワン・ガンウー博士と、同じ日にこの栄誉を受けることができたということであります。お二人に対し、心よりお喜びを申し上げたいと存じます。

私の専門とする地域研究という学問の分野は、学際的というその性格上、専門を異にする多くの研究者の協力を必要といたします。私の研究はこうした多くの先輩同僚たちの協力に支えられて進めることができました。それゆえ今日私に与えられた栄誉は、私が一人占めにすべきではなく、これまで私を助けてくださった多くの東南アジア研究者とその栄誉を分かつべきものと考えます。

来たるべき21世紀においては、アジアの諸地域と日本との関係はますます深まって行くものと思われます。今日の受賞を機に、思いを新たにして、アジア研究に取り組んで行きたいと存じます。

ありがとうございました。

受賞者挨拶

パドマー・スブラマニヤム

全ての神聖なる師に捧げる

もし私が福岡アジア文化賞委員会会長ならびに各委員の皆様に対し、このような素晴らしい賞を賜りました感謝の気持ちを上手く言い表わせるような詩人であったならどんなによかったでしょうか。この賞はインドと日本を永遠に結ぶ絆の象徴です。この人生の晴れ舞台において、私は私の愛する両親 − 父であり映画監督であったK. スブラマニヤムそして母のミーナークシー、舞踊の師ヴァルヴール・ラーマイヤ・ピッライ氏、研究の師T.N. ラーマチャンドラン博士、そして音楽の師B.V. ラクシュマン氏に感謝の言葉を捧げたいと思います。この栄誉は、私の家族つまり兄バーラクリシュナンと彼の妻のシャーマラー、彼らの息子カンナン、そしていつも一緒に仕事をしている家族同様の私のスタッフ、生徒、音楽家、技術者の皆と共に分かち合いたいと思います。また私をこの賞に推薦して下さった方々、私の踊りを賞賛して下さる聴衆の皆様方にも感謝申し上げたいと存じます。

1980年に国際交流基金の招きで訪日しました折、演劇・音楽・言語・宗教そして価値観など文化の様々な分野で、私たちインドと日本が似ていることに大変感銘を受けました。アジアに共通な文化のエートスに関して、私たちはもっと意識を高める必要があります。アジア的な特徴は「ダルマ（法）−正しい生き方」の上に築かれているのです。私たちは人間同士の関係において、また全生物と人間との関係において、ある種共通の法則に従って結ばれています。

この20世紀、技術的物質的進歩にはめざましいものがありましたが、「人類」は後退したようです。精神的に必要なものは無視され、どのような国際協定も戦争をくい止めることができずにいます。思想・言動における暴力をなくすためには文化の概念を復活させる必要があります。文化とはすなわち美と真実を通じて価値観を深めることを意味します。どうか、美と真実をみつける内なる旅を通じて21世紀にチャレンジしていこうではありませんか。アジアは、そんな前進をいつでも支持してきたのです。

日本は、戦後の灰の中から香り高い花の如く立ち直ってきました。また福岡はアジアに共通の自尊心をめざめさせるための中枢神経のような役割を果たしています。太陽 − 母なる天照（アマテラス）は初め日本から立ち現れ、やがてアジア全体に光を与えました。この度の受賞は天照大神あるいは古代インドの聖典ヴェーダのガーヤトリー女神に匹敵するサンスクリットのアマラ・テージャスが永遠の光に向かって旅を続けよと私に下さったものと考えております。この栄誉は私の精神的な導師、カーンチープラムの第68代シャンカラーチャーリヤである聖シュリー・チャンドラシェーカレーンドラ・サラスワティー・スワーミガル尊師の蓮のようなおみ足に捧げたいと思います。同師は今年100才で解脱されました。この宇宙が調和に満ちた祝福を受けられますよう、お祈りいたします。ありがとうございました。

特別舞踊《バーラタ・ナーティヤム》

芸術・文化賞受賞者パドマー・スブラマニヤム氏により、特別舞踊としてバーラタ・ナーティヤムが披露されました。また舞踊に先立ち、水不足に悩む福岡のためヴィーナー、ムリダンガによる「神の酒」という雨ごいの曲が演奏されました。

◆バーラタ・ナーティヤム

インドの代表的な4つの舞踊のうち最も古く、また最も広く親しまれている南インドの舞踊。現在タミル・ナードゥ州南東部、とくにマドラス市を中心に行われている。祈りの踊りとして寺院から発生し、デーヴァダーシー（神の召使）と呼ばれる、ヒンドゥー教の寺院に所属する女性によって伝承されてきたが、一時は衰退した。20世紀の初頭、古文化再認識の動きに伴って、バーラタ・ナーティヤムは寺院を離れ、舞台芸術として再生し、一般の人々がこの舞踊を学び楽しむようになった。

◆伴奏楽器

○ヴィーナー

インドの代表的な弦楽器。おもに南インドで古典音楽に独奏楽器として用いられている。通称ジャック・ウッドと呼ばれるパラミツ(クワ科)の木をくりぬいて作られる。演奏弦は4本で、他にリズムを刻むサイド弦が3本ある。棹の片端には紙のはりぼてか、ひょうたんの共鳴体が取り付けられている。

○ムリダンガ

南インドの太鼓。古典音楽の伴奏に用いられる。中央がふくらんだ円筒形の両面太鼓で、あぐらをかき、横にして両手で挟むような形で演奏する。

（参考文献『南アジアを知る事典』平凡社、1992）

記念講演会

日時：9月3日（土） 午後1時～3時　　場所：福岡市役所15階講堂

1994年（第5回）福岡アジア文化賞記念講演会は、授賞式の翌日、福岡市役所の15階講堂で行われました。

記念講演会は、受賞者と市民が身近に触れ合うことができる貴重な機会なので、広く、市政だより、テレビ、ラジオ、ポスター等で参加者の公募を行い、当日は約400名の参加がありました。

講演会は、日本語、英語の同時通訳付きで行われました。

COMMEMORATIVE LECTURES

Date : Saturday, September 3, 1994　　1 : 00 – 3 : 00 p.m.
Place : Auditorium, Fukuoka City Hall, 15th Floor.

On the day following the prize presentation ceremony, commemorative lectures were given by the prize recipients.

The lectures offered a golden opportunity for citizens to meet with the recipients, so they were widely advertised in the Municipal Newsletters, newspapers, posters and other means of mass media. Thus, over 400 individuals attended the lectures.

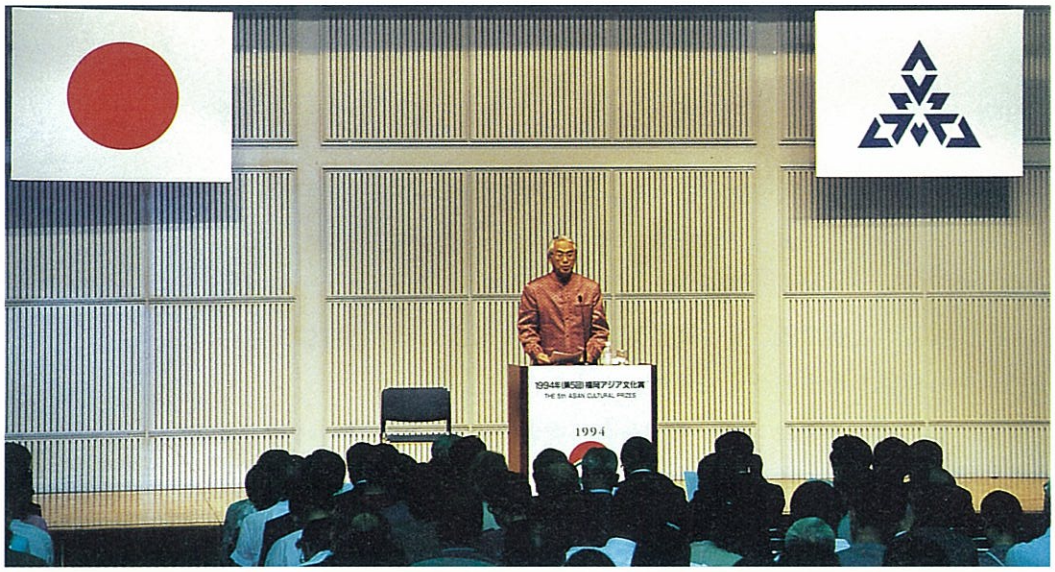
The lectures were simultaneously interpreted in Japanese and English.

式次第

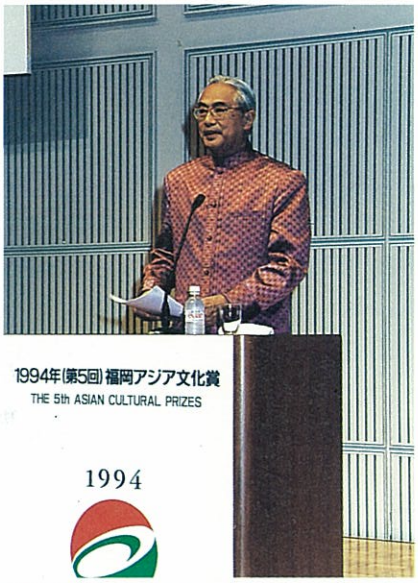
開　会	13：00
主催者代表挨拶	福岡市長　桑原敬一
講　演	
王　賡　武	
石井　米雄	
パドマー・スブラマニヤム	
スパトラディット・ディッサクン	
閉　会	15：00

PROGRAM

Opening	1 : 00 p.m.
Greetings	Keiichi Kuwahara Mayor of Fukuoka City
Lectures	
Professor Wang Gungwu	
Professor Yoneo Ishii	
Dr. Padma Subrahmanyam	
Professor M.C. Subhadradis Diskul	
Closing	3 : 00 p.m.



記念講演会会場
The Commemorative Lecture Hall



講演するスパトラディット・ディッサクン氏
Professor M. C. Subhadradis Diskul presented his Commemorative lecture.

講演する王賡武氏
Professor Wang Gungwu elaborated on his life experiences

講演する石井米雄氏
Professor Yoneo Ishii gave a Commemorative lecture.

講演するパドマー・スブラマニヤム氏
Dr. Padma Subrahmanyam presented her Commemorative lecture.

ワークショップA　アジア地域研究フォーラム

日時：9月3日（土）　午後4時～6時　　場所：福岡市役所15階講堂

受賞者と研究者、学生等との学術・芸術・文化交流を促進するため、福岡都市圏15大学との共催によりワークショップを開催いたしました。

ワークショップAは記念講演会終了後、引き続き福岡市役所15階講堂で学術研究賞・国際部門受賞者の王賡武氏、国内部門受賞者の石井米雄氏の話題提供を中心に、『華人の世界と上座仏教の世界』をテーマとして行われました。

会場では、地元のみならず、全国から研究者、学生、市民等約130名が参加し、テーマをめぐって活発な意見が交換されました。

WORKSHOP A　Asian Studies Forum

Date : Saturday, September 3, 1994　　4 : 00 – 6 : 00 p.m.
Place : Fukuoka City Hall, Auditorium 15th Floor

In order to further deepen the scientific exchange among the recipients, scholars and students in that field, Workshop A was held in cosponsorship of fifteen universities in Fukuoka City and its neighboring towns.

Following the commemorative lectures, Workshop A was given jointly by the International Academic Award recipient, Professor Wang Gungwu and the Domestic Academic Prize awardee, professor Yoneo Ishii with the title of "The World of Chinese Overseas and The World of Theravada Buddhism" at Fukuoka City Hall Auditorium on the 15th floor.

130 scholars and citizens participated in the workshop and exchanged inspiring views.

ワークショップA　プログラム

開　会　　16：00

主催者代表挨拶

福岡市総務局長　志岐　眞一

出演者紹介

話題提供1　　王　賡　武

話題提供2　　石井　米雄

質疑応答

コーディネーター

京都大学東南アジア研究センター教授

土屋健治

閉　会　　18：00

Program

Opening　4 : 00 p.m.

Greetings　Shin-ichi Shiki
Executive Director
General Affairs Bureau
Fukuoka City

Theme Presentation
Professor Wang Gungwu
Professor Yoneo Ishii

Q & A Session
Coordinator:
Professor Kenji Tsuchiya
Center for Southeast
Asian Studies,
Kyoto University

Closing　6 : 00 p.m.

ワークショップ会場
Workshop A at Auditorium, Fukuoka City Hall

王賡武氏による話題提供
Professor Wang presented a theme.

石井米雄氏による話題提供
Theme presentation by Professor Ishii.

コーディネーターの土屋健治氏
Professor Tsuchiya coordinated the workshop.

活発な意見交換を行う参加者
Participants exchanged inspiring views.

ワークショップB　インド舞踊パフォーマンス

日時：9月3日(土)午後6時30分～8時30分　　場所：ＮＨＫ福岡放送局Ｔ－1スタジオ

ワークショップＢは記念講演会終了後、会場をＮＨＫ福岡放送局Ｔ－1スタジオに移し、芸術・文化賞受賞者パドマー・スブラマニヤム氏の出演により、『インド舞踊パフォーマンス：バーラタ・ナーティヤムの祈り』と題して行われました。

会場では、市民を中心に約300名が参加し、名古屋芸術大学の井上貴子氏の解説を交えながら表現豊かな演技を堪能しました。

WORKSHOP B　Indian Dance Performance

Date : Saturday, September 3, 1994　　6 : 30 - 8 : 30 p.m.

Place : T-1 Studio of NHK, Japan Broadcasting Corporation in Fukuoka

An Indian Dance Performance "Prayer of Bharata Natyam" was given by the Arts and Culture Prize recipient, Dr. Padma Subrahmanyam, as Workshop B at T-1 Studio of NHK, Japan Broadcasting Corporation in Fukuoka.

Explanation on the traditional dance was given by Ms. Takako Inoue, Lecturer of Nagoya University of Arts. 300 citizens were mesmerised by Dr. Padma's eloquent dance routines.

ワークショップB　プログラム

開　演　　18：30

舞踊第1部（バーラタ・ナーティヤム）
パドマー・スブラマニヤム

解　説　「バラタ・ナーティヤム
～インド舞踊へのいざない」
名古屋芸術大学音楽学部講師　井上貴子

舞踊第2部（バーラタ・ナーティヤム）
パドマー・スブラマニヤム

舞踊第3部（日本の曲）『春の海』
パドマー・スブラマニヤム

閉　演　　20：30

Program

Opening　　6 : 30 p.m.

Dance Performance I : "Bharata Natyam"
by Dr. Padma Subrahmanyam

Explanation
"Invitation to Indian Dance : Bharata Natyam"
by Ms. Takako Inoue, Lecturer
Nagoya University of Arts

Dance Performance II : "Bharata Natyam"
by Dr. Padma Subrahmanyam

Dance Performance III : "Haru no Umi"
(Japanese koto music)
by Dr. Padma Subrahmanyam

Closing　　8 : 30 p.m.

ワークショップ会場
Dance Performance Hall

ヴィーナー、ムリダンガの演奏
Musical performance of Veena and mridanga

表現豊かなパドマー氏の舞踊
Eloquent dance routines by Dr. Padma

井上貴子氏による解説
Explanation by Ms. Takako Inoue

フィナーレ
Finale

ワークショップC　アジア考古・美術史フォーラム

日時：9月4日(日)午後1時30分～4時30分　　場所：九州大学国際ホール

ワークショップCは大賞受賞者スパトラディット・ディッサクン氏を囲み、『日本と東南アジアー美術・歴史・文化の交流』をテーマに行われました。

会場では、学術関係者のほか、学生、市民約100名が参加し、スライドを駆使した講演、問題提起のあと、パネルディスカッションでは活発な議論が展開されました。

WORKSHOP C　Asian Archaeology and Art History Forum

Date : Saturday, September 4, 1994　　1 : 30 – 4 : 30 p.m.

Place : International Hall, Kyushu University

Workshop C entitled, "Japan and Southeast Asia : Exchange of Art, History and Culture," was held in the presence of Prince Subhadradis Diskul, the Grand Prize recipient at the International Hall of Kyushu University.

Professor Diskul's lecture and showing of slides was followed by theme presentations by other scholars. A total of 100 scholars and citizens participated in the forum and active discussions were held.

ワークショップC　プログラム

開　演　　13：30

主催者挨拶

九州大学文学部学部長　野澤　秀樹

出演者紹介

基調講演 スパトラディット・ディッサクン

『タイの歴史と文化交流』

問題提起1

上智大学アジア文化研究所教授　石澤良昭

問題提起2

鹿児島大学教養部教授　新田栄治

問題提起3

福岡市美術館学芸課主査　尾崎直人

パネルディスカッション

コーディネーター

九州大学文学部教授　西谷正

閉　会　　16：30

Program

Opening　1 : 30 p.m.

Greetings　Professor Hideki Nozawa
Dean, Faculty of Literature
Kyushu University

Introduction of Speakers

Keynote Speech
"Thai History and Cultural Exchange"
by Professor M.C. Subhadradis Diskul

Theme Presentation 1
Professor Yoshiaki Ishizawa
Institute of Asian Cultures,
Sophia University

Theme Presentation 2
Professor Eiji Nitta
Department of Liberal Arts,
Kagoshima University

Theme Presentation 3
Mr. Naoto Ozaki
Assistant Curator
Fukuoka Art Museum

Panel Discussion
Coordinator:
Professor Tadashi Nishitani
Faculty of Literature,
Kyushu University

Closing　4 : 30 p.m.

ワークショップ会場
Workshop C was held at International Hall, Kyushu University

スパトラディット・ディッサクン氏による基調講演
Keynote speech by Professor Diskul

新田栄治氏による問題提起
Theme presentation by Professor Nitta

石澤良昭氏による問題提起
Professor Ishizawa presented a theme.

コーディネーターの西谷正氏
Workshop C's coordinator, Professor Nishitani

尾崎直人氏による問題提起
Mr. Ozaki's theme presentation